

グローバルな医療人になる。



Yokohama

医学部 医学科

STUDY ABROAD PROGRAM 2020-2021

海外留学ガイドブック



海外経験を通して、 新しい時代に活躍できる グローバルな医療人へ。

【在学中に3人に1人以上の学生が
海外留学や国際交流プログラムなどへの
参加を経験することを目標としています。】



Message

横浜市立大学は、国際都市横浜と共に歩む大学として教育・研究・医療の拠点機能を担うことをその使命としており、人材育成とともに、横浜の発展に寄与し、市民の誇りとなる大学を目指しています。本学は、これまでも大学改革を進めてきましたが、今後はより一層、教育・研究・医療と地域貢献の「質の向上」を進めていきます。また、優秀なグローバル人材を世の中に送り出すとともに、先端研究の成果と、高度医療を横浜から世界へ発信する努力を続けています。

医学部では、平成28年度に他大学に先駆けて日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、平成30年度には評価基準に適合していることが認定されました。今後も引き続き、グローバルスタンダードに準拠した教育システムの構築を進めていきたいと考えています。それと同時に、海外派遣プログラムの充実や留学生受入れプログラムの準備など、多くの学生が海外経験を積めるような様々な取組に力を入れています。毎年、多くの学生が海外での研究や医療に触れ、新しい目標を見つけ目を輝かせて帰ってくるのを、非常に嬉しく、また頼もしく感じています。1人でも多くの学生が海外経験をできるよう、これからも新しい時代でグローバルに活躍できる医療人の育成に尽力していきます。



医学部長

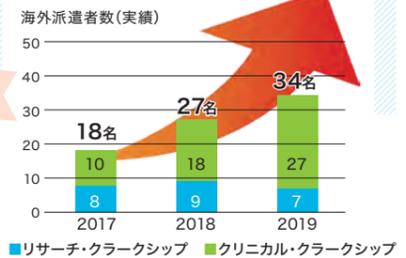
益田 宗孝

Close up! 世界に広がる研修・留学先

(協定校および2019年度派遣先)



今後も新たな協定の締結などによって留学・研修先が増える予定です。



Close up! 過去3年の海外派遣実績

リサーチ・クラークシップ

	シンガポール国立大学	シンシナティ小児病院	サンフォード・バーナム・プレビス 医学研究所	ウェイン州立大学
2019	-	-	2	2
2018	1	3	2	2
2017	2	2	1	1

	カリフォルニア大学サンディエゴ校	2019年度新規プログラム		ハーバード大学医学大学院	世界保健機関 ジュネーブ本部
		テンプル大学			
2019	1	2	-	-	-
2018	1	-	-	-	-
2017	-	-	1	-	1

クリニカル・クラークシップ

	スタンフォード大学	Nemours 小児病院	カリフォルニア大学サンディエゴ校	英国大学*1における臨床実習	テンプル大学	2019年度新規プログラム	
						MDアンダーソンがんセンター	ストラスブル大学
2019	中止	2	2	1(リーズ大学)	2	2	1
2018	2	2	2	1(ニューキャッスル大学)	-	-	-
2017	-	-	2	1(ニューキャッスル大学)	-	-	-

	2019年度新規プログラム			交換留学		短期海外研修		
	ミュンヘン大学	コロンビア大学	タマサート大学	パリ・デカルト大学	ルーヴァン・カトリック大学	プリティッシュコロンビア大学	ハワイ大学	シンガポール国立大学シミュレーションセンター
2019	中止	中止	中止	3	0	1	1	12
2018	-	-	2	2	-	1	1	5
2017	-	-	2	2	-	3	0	-

*1 オックスフォード大学、ダンディー大学、ニューキャッスル大学、リーズ大学

Program 2種類の留学プログラム

リサーチ・クラークシップ Research clerkship

(4年次生対象・研究実習)

海外の研究機関等において、基礎・臨床研究に一定期間携わるプログラムです。世界トップレベルの研究所や医療機関での研究に触れることで、研究力や英語力の向上とともに、豊かな国際感覚を身につけることを目的としています。

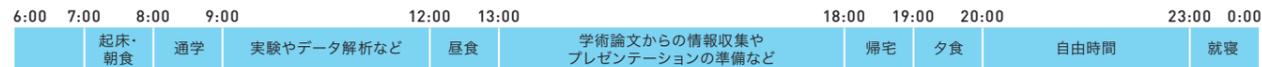
派遣先	派遣可能人数	受入教員
ウェイン州立大学	2名	浅野 英司 先生
カリフォルニア大学サンディエゴ校	1名	Ariel E. Feldstein 先生
テンブル大学	2名	江口 暁 先生
スタンフォード大学	1名	中内 啓光 先生
シンガポール国立大学	2名	須田 年生 先生
シンシナティ小児病院	2名	武部 貴則 先生
サンフォード・バーナム・プレビス医学研究所	2名	Evan Snyder 先生
コーネル大学	1名	Ronald G. Crystal 先生

派遣期間 4月～7月中旬 / 3ヶ月～3ヶ月半

単位 研究実習(リサーチ・クラークシップ)

費用目安 約50万円～85万円(渡航費、宿泊費、保険料、現地での生活費など)

●1日のスケジュール(例)



クリニカル・クラークシップ Clinical clerkship

(5、6年次生対象・臨床実習)

海外の医療機関で診療の見学や医師の業務に近い臨床実習を行うプログラムです。医療システムや医学教育の違いを肌で感じることができます。

派遣先	派遣可能人数
Nemours 小児病院	2名
ストラスブル大学	2名
ルーヴァン・カトリック大学	1名
【交換留学】パリ・デカルト大学	2名
【交換留学】タマサート大学	2名
MDアンダーソンがんセンター	2名
カリフォルニア大学サンディエゴ校	2名
テンブル大学	2名
スタンフォード大学	2名
コロビア大学	1名
英国大学医学部における臨床実習	1～2名
ミュンヘン大学	1名
上海交通大学	2名

派遣期間 3月～4月 / 2週間～4週間

単位 病棟実習

費用目安 約30～40万円
(渡航費、宿泊費、保険料、現地での生活費など)

※2020年度は、新型コロナウイルスの影響により多くの大学で募集が中止になりました。

●1日のスケジュール(例)



短期海外研修のプログラム

ブリティッシュコロビア大学 Vancouver Summer Program

募集人数 制限なし
対象学年 4～6年生
派遣期間 7月中旬～8月中旬/1か月
費用目安 約70万円(渡航費、宿泊費、保険料、現地での生活費、プログラム参加費など)

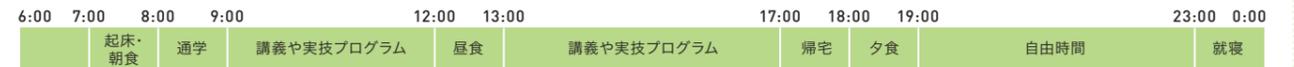
ハワイ大学 Summer Medical Education Institute

募集人数 制限なし
対象学年 3～6年生
派遣期間 8月中旬～/1週間
費用目安 約30万円(渡航費、宿泊費、保険料、現地での生活費、プログラム参加費など)

シンガポール国立大学シミュレーションセンター Experiential Stimulation Programme

募集人数 各期間6名ずつ、計18名
対象学年 5,6年生
派遣期間 ①6月末～7月、②8月末～9月、③10月
費用目安 約25万円(渡航費、宿泊費、保険料、現地での生活費、プログラム参加費など)

●1日のスケジュール(例)



スケジュール (予定) 新型コロナウイルスの影響により、スケジュールの変更・プログラムが中止になる可能性があります。

プログラム	2020						2021												
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
リサーチ・クラークシップ	← 募集			● 選考			← 募集			● 選考	← 募集			● 選考					
クリニカル・クラークシップ	← 募集			● 選考			← オリエン	← 派遣				← オリエン	← 派遣						
短期海外研修プログラム	← 募集						● 選考					← オリエン	← 派遣						
	← 募集						● 選考					← オリエン	← 派遣						
	← 募集						● 選考					← オリエン	← 派遣1	← オリエン	← 派遣2	← オリエン	← 派遣3		

留学体験者の声

リサーチ・クラークシップ

シンガポール国立大学

氏名: 島田 祥子さん
学年(留学当時): 4年
派遣先: がん科学研究所 須田 年生先生 研究室
派遣期間: 2018年3月30日~7月14日



留学を通じて感じたこと

海外でのリサーチ・クラークシップを通じて様々な国籍の方と知り合うことで、様々な生き方があるのだと感じました。また母国語以外に、自分自身にゆかりのある言語など、多数の言語をネイティブのように話せる人々が多く、第2外国語として日本語を学んでいる人も多くいました。日本には日本語以外の言語をネイティブスピーカーのように話せる人は少ないように思うので、新鮮に感じました。また、多国籍の人々と触れ合い、自分がいかに無知であったかに気づかされる毎日で、自分がいかに型にはまりすぎていたかを実感しました。まだ自分の可能性は十分にあり、これから自分の人生をいかに楽しいものにするかを考えていこうと思えました。

今後、この経験をどのように活かすか

海外で生活をするということに関しての抵抗がなくなり、英語も多少改善したと思うので、機会があれば、将来海外で仕事をしたいと

思います。私は日本では一人暮らしの経験がなく、今回初めて一人で生活をしたのですが、この経験を通し、積極性が生まれたように感じます。友達を作るうと積極的に動くことで、中国やベトナム、インド、もちろんシンガポール出身の友人ができました。今後も交流できたら良いと思っています。

後輩へのアドバイス

海外において一人で生活することが、良い経験になることは確かです。人とのつながりも出来ずし、迷っているなら飛び込んでみるべきだと思います。特にシンガポールの研究所では、研究について一から教えてもらえるため、質問もしやすく、私自身多くのことを学ぶことができました。

海外の研究所を選択しない場合でも、この3ヶ月間は自分次第でどのようにでもなると思います。積極的に行動すると、リサーチ・クラークシップが一層有意義なものになると感じました。

リサーチ・クラークシップ

サンフォード・バーナム・プレビス医学研究所

氏名: 長谷川 ゆりさん
学年(留学当時): 4年
派遣先: Evan Snyder先生 研究室
派遣期間: 2019年4月2日~6月29日



留学を通じて感じたこと

サンフォード・バーナムのラボはアメリカ人が多く、とても気さくな方ばかりでした。院生や学部生など同年代の人もいて、仲良くなり一緒に出かけることもありました。ラボの雰囲気も人も明るく自由で、楽しい留学生活を送ることができました。英語に関しては、日本で学ぶ英会話レベルでは太刀打ちできないと感じました。ですが、ラボの方々はとても優しく積極的に話しかけてくれ、おかげで3ヶ月過ぎすうちに、少しずつ自分の意見や主張を述べるできるようになったと思います。

今後、この経験をどのように活かすか

アメリカのラボでのコミュニケーションを通じて、積極的に自分の意見や質問を述べていくコミュニケーションスキルを身につけることができたので、今後の臨床実習などに活かしていきたいと思っています。私は今まで研究医になることはあまり考えていなかったのですが、アメリカでの自由なラボ生活を体験してみて、研究医という選択肢も面白そうだと感じるように

なりました。将来、知識や技術を今よりも磨いた状態で、またアメリカで研究にチャレンジしたいと思っています。

後輩へのアドバイス

海外でのリサーチ・クラークシップは、アメリカのラボの様子や人の働き方・考え方、そしてアメリカでの生活に実際に触れることのできる貴重な機会だと思います。そして短期とはいえ、3ヶ月間の留学なので、治安が良くて安心できるサンディエゴはとてもお勧めです。準備としてはiPS細胞や神経幹細胞を扱うラボなので、幹細胞研究の知識があるとラボの人とのコミュニケーションが取りやすいと思います。また英語に不安があるならば、論文を読んだり、細胞培養の基本手技を日本でひと通りさらしておく、少し余裕が持てると思います。とはいえ、現地に行くことで刺激を受け、自然と学びたいという意識が生まれてくると思うので、後輩の皆さんにはまずはリサーチ・クラークシップで海外の研究室に行くというチャレンジを是非試してみたいと思います。

リサーチ・クラークシップ

シンシナティ小児病院

氏名: 馬場 英理子さん
学年(留学当時): 4年
派遣先: 武部 貴則先生 研究室
派遣期間: 2018年4月1日~7月15日



留学を通じて感じたこと

今まで大学では、既存の知識や技術をひたすら習得し、テストで試されるという受動的な学習を行ってきました。しかしこの留学では、目的を設定し、そのための実験をし、結果を考察するという能動的な経験を積むことができました。元々実験や研究に関する予備知識が少なかったため、それらを習得することにも時間や労力を費やしましたが、その分、大変充実していました。また生活面でも、家事能力の向上だけでなく、協力することの大切さ、家族の有り難みを感じることができました。予想以上に大変でしたが、その分様々な面で成長できたと思っています。

今後、この経験をどのように活かすか

大学で学ぶ知識は、あくまでも将来医療の場で活かすための武器なのだということを噛み締めて学習していきたいと思っています。また、研究を行う上での思考のプロセスや、論文から知識を得る姿勢、

実験背景にあった医療の課題などは、今後能動的に学習する上で心がけていきたいと思っています。

後輩へのアドバイス

シンシナティ小児病院は、どこよりも自主性が問われる研修先だと思います。何をやるか、しないのか、全て自分次第です。やりたい研究を見つけるのはもちろんですが、流されて抱え込みすぎないようにも気をつけて下さい。3ヶ月半という限られた時間の中で、何ができて何ができないのかよく考え、計画を立ててから行動すると思います。

リサーチ・クラークシップ

ウェイン州立大学

氏名: 水野 亜紀さん
学年(留学当時): 4年
派遣先: 浅野 英司先生 研究室
派遣期間: 2019年3月25日~6月20日



留学を通じて感じたこと

浅野先生の研究室では薬物難治性てんかんや脳腫瘍の手術の際に、重要な機能を持った脳の部位を守るための研究を一部担当しました。その中で、普段の会話中や論文のアブストラクトを書いた際、自分の英語力不足を実感しました。書かれた文章を読むと理解できますが、自分でいざ書くとなるとすぐに手が止まってしまう、とても難しかったです。文法が正しくても使われない英語は、自分では気づくことができないので、指摘していただけることは有り難く非常に貴重な機会であると感じました。

今後、この経験をどのように活かすか

将来の医師になってからの留学についても考えることができました。浅野研究室には、精神科、脳外科、小児科の先生方が日本から研究留学でいらっやっており、お話をする機会を多くいただく中で、医師としての留学のイメージが具体的になりました。

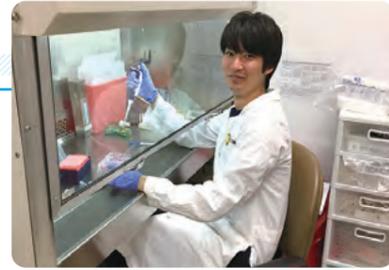
後輩へのアドバイス

浅野先生の研究室は、ミシガン小児病院の中にあり、毎週月曜日には小児科・脳外科カンファレンスに参加します。研究だけではなく臨床の現場も見てみたい方にはお勧めな研究室です。学習面では、研究内容に関する専門用語も少し頭に入れていくと、カンファレンスなどで話している内容が聞き取りやすく、理解のスピードが早くなると思います。また、学生のうちに3か月というまとまった期間を海外で過ごせる機会は多くありません。浅野ラボの研究テーマである脳についてはもちろん、それ以外にも本当に多くのことを学べる貴重な経験になると思います。少しでも興味があれば、選択肢に入れてみてください。

リサーチ・クラークシップ

カリフォルニア大学サンディエゴ校

氏名:西尾 祐紀さん
 学年(留学当時):4年
 派遣先:Ariel Feldstein先生 研究室
 派遣期間:2019年4月1日~7月4日



留学を通じて感じたこと

実験で失敗や成功を重ねることで、基礎研究の面白さ、厳しさを体験することができました。アットホームな横浜市立大学とは違った世界を覗くことができ、よい経験になったと思います。同じフロアのラボには日本人ドクターも多く、有意義なお話を聞くことができました。将来的に博士号をとって、ポスドクとして海外に留学したい気持ちが大きくなりました。

今後、この経験をどのように活かすか

しっかりとした実験の経験もなく、外国での暮らしも初めてだったので苦労も多かったですが、自分で疑問点を細かく調べたり、失敗から学んでいく姿勢が身につけ、よい経験となりました。実験手法、論文読解力は少しずつ改善していったと思います。度胸という点でいえば、留学前より確実に身についたと思うので、一つ、人間として成長できるきっかけになったと感じています。

後輩へのアドバイス

研究室はアメリカの他、アルゼンチンやドイツ、ポーランド、フィリピンなど非常に多国籍なメンバーで構成されており、英語でのコミュニケーションは必須です。実験手法に関しては、Feldstein LabはqPCR、Western blotting、染色、ELISA、FACSを用いることが多いので、2年生時の生化学実習、分子生物学実習、免疫学実習の資料をレポートと合わせて復習しておくことと実験に入っていくとスムーズに感じます。研究内容についての予習は難しいですが、現地で論文を読んだり質問していけば問題はありません。実験手法や研究内容を理解すれば、英語についてもだんだんわかってくるので、積極的にチャレンジしていいと思います。

リサーチ・クラークシップ

テンプル大学

氏名:雪森 彩花さん
 学年(留学当時):4年
 派遣先:心臓血管研究センター 江口 暁先生 研究室
 派遣期間:2019年4月1日~6月28日



留学を通じて感じたこと

研究留学を通じて、研究面ではもちろんですが、それだけではなく生活面でも非常に多くのことを学ぶことができました。今回が初めてのアメリカ訪問でしたが、カード支払い時のチップの払い方や、SIMカード、シャワーの使い方など、一つ一つは小さいことですが、最初は色々とうまく行かないことが多く、母国語の通じない慣れない土地で生活することの大変さを感じました。

今後、この経験をどのように活かすか

3ヶ月間、アメリカで過ごしたという経験は、自分の自信につながると考えています。また海外に行く機会があれば、ぜひ挑戦してみたいと思います。言語の面では、スピーキングに関しては、ゆっくり焦らずに大きな声で話すことが大切だと思いました。リスニングに関しては、相手の話すスピードについていく必要があるため、より難しいと感じま

した。今後の課題として、リスニングをさらに強化するべきだと思いました。

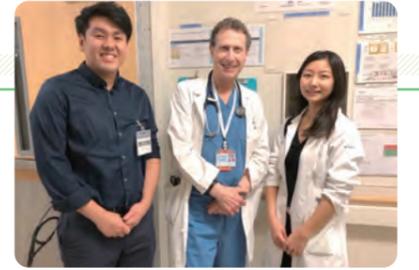
後輩へのアドバイス

大学のプログラムで海外に3ヶ月も行く機会を与えてもらえるということは、本当に素晴らしいことで、少しでも興味があればぜひ行くべきだと思います。アメリカの研究システムや医学部の仕組みなど研究以外にも多くのことを学べます。ラボのメンバーは多くの実験をこなしながら、私たちの指導や手伝いをしてくださり、とても居心地の良い研究室でした。英語も、スラスラ話せる必要はなく、ゆっくりでも意思を持ってしっかり話せば、研究室の人は優しく耳を傾けてくれます。何より、日本ではできない貴重な経験が多く、本当に楽しいことがたくさんあります。

クリニカル・クラークシップ

Nemours小児病院

氏名:敦澤 美月さん
 学年(留学当時):5年
 派遣期間:2020年3月2日~3月16日



留学を通じて感じたこと

救急科の見学をして驚いたことは、10代以降の患者さんには喫煙や飲酒に加えて薬物の使用の有無の問診を行い、多くの患者さんが過去若しくは数日前に使用していたことです。さらに虐待のないこと、学校生活において不安がないこと、性交渉の有無などの繊細な点について患者さんに問診するためには医師と患者さんとの信頼関係を築く必要があると感じ、この点は世界共通だと実感しました。また外国人の患者さんにも同じように安心感を与えられる医師になりたいと思いました。あらゆるカンファレンスでは学生や研修医が積極的にディスカッションに参加しており、医師からの問いかけに沈黙が続くことはほとんどなく、質問も多く出され、質問から内容が発展することは講義する側も学ぶことが多いように感じました。アメリカに渡航するのは今回が初めてでしたが、医療とは別に多様性を感じました。日本では客室乗務員が女性という固定観念がありますが、アメリカ国内では男性の客室乗務員が半数で、看護師も性別の割合に偏りがないように感じました。刺青などは文化の違いもあるため賛否はとも

かく、固定概念のない多様性があることは特に人種のつぼと呼ばれるアメリカならではの魅力だと思いました。

今後、この経験をどのように活かすか

カンファレンスでは積極的に発言がされ、自らも積極的に質問しようと思学時にも意欲的になることができ、また、世界と日本の医療の違い、生活や考え方の違いについて考える機会となりました。私は不妊治療に興味があり海外でも学びたいと考えていますが、今後は医療英語の学びにさらに力をいれ、海外でも医療に携われるようになりたいです。

後輩へのアドバイス

自分の興味のある診療科を選んで見学できるのがこのプログラムの魅力です。また救急科の見学をすることで英語での診療を学べ、カンファレンスの中でも学ぶことが多いため、将来海外で臨床に携わることに興味がある学生にお勧めします。次回の参加者にはぜひ4週間の実習を経験してほしいです。

クリニカル・クラークシップ

スタンフォード大学

氏名:高橋 良汰さん
 学年(留学当時):5年
 派遣期間:2019年3月4日~3月15日



留学を通じて感じたこと

アメリカの小児心臓血管外科医がどんなことをしているのかを知り、アメリカの大きな病院で働くことの雰囲気をつかむことが出来ました。アメリカは日本と比較するとパラメディカルが充実しています。事務作業を医者がやるのが少なく、その分、外科医はオベに集中できる時間が多くなることで、より腕を磨けると実感しました。一方で、病棟管理や外来診療スキルを磨けるのは日本の医療の良いところであり、それぞれについて勉強して、将来的により良い働き方を探していこうと思いました。扱っている症例は日本で今まで見たものより複雑であり、さすがアメリカにはいろいろな種類の症例が集まってくると思います。また、海外で研修するには、相手を理解するためにも自分から発信するためにも、それなりの英語力が重要なのだと実感しました。

興味より強くなったので、留学経験のある先生方のご講演などに積極的に参加して情報を集め、人脈を広げていこうと思いました。さらに、英語を自在に使いこなせなかった悔しさをバネにして、今後より一層英語学習に力を入れていこうと思っています。今回得た医学知識をすぐ使いこなすことは難しいですが、本留学の経験を将来への大きな躍動力やモチベーションにつなげていきたいと考えています。

今後、この経験をどのように活かすか

今後、後期研修医までは、日本で医療を学んでいく予定ですが、その過程で、今回の留学で出会えたロールモデルの一つともいえる小児心臓外科医たちの姿を常に意識して、より高い志を持ち続けていきたいです。また、海外臨床留学への

後輩へのアドバイス

私は、海外留学を是非ともお勧めします。留学には多少のリスクも伴いますが、日本のいつもの生活では得ることの出来ない経験ができます。自分もこんなふうになりたいと思える医者に会えたり、今までの自分では思いつかないであろう考え方に気づかされたり、海外と比較することで日本の医療を、また日本で育った自分自身をも客観的に見つめ直すことができます。本留学プログラムは、小児循環器内科医や心臓外科医を目指している人、ICU管理に興味のある人には最適だと思います。将来、海外で医師として働いてみたいと考えている人にとって、前田先生のご活躍に直接触れることは大きな刺激になるでしょう。是非お勧めしたいです。

クリニカル・クラークシップ
(交換留学)

パリ・デカルト大学

氏名:寺田 由佳さん
学年(留学当時):5年
派遣期間:2020年3月2日~3月13日



留学を通じて感じたこと

日本とヨーロッパでの医療の違いを強く感じました。外来、入院以外のデーホスピタルという医療を受ける形態や、現地の医学生が研修医のように初診の対応をしていることなど、日本でも応用できそうで参考になる場面が多くとても勉強になりました。また一方で、日本の医療の清潔さや、患者さんへの配慮など海外と比べて優れた点も多く、それらを改めて認識できる機会となりました。

今後、この経験をどのように活かすか

海外の臨床実習に参加させて頂き、海外の医療についてより興味が深まりました。また外国で医療を受ける患者さんの立場も知る機会となりました。母国語ではなく、理解も十分でない外国語で医学的な説明や質問をされる状況におかれ、いかに理解が追いつかないかを実感しました。日本でも患者さんの多様化が進んでいく中で、外国の方への対応は十分ではありません。将来、言語の違う患者さんに対応するときなど、今回の留学で学んだことを生かしていきたいと思えます。

先輩へのアドバイス

私は今まで留学などしたことはなく、フランスに向かう前はとても不安でした。しかし横浜市立大学は交換留学生の枠も多く、サポートもされているので、語学力に自信がなくてもしっかりと準備することで、無事留学することが出来ました。海外での臨床に興味がある方はぜひ挑戦してみるべきだと思います。また今回はフランス語については勉強不足でほとんどわからなかったのですが、膠原病に関する英語だけでなく、フランス語についてももう少し勉強しておく、もっと学べるが多かったと感じました。

Exchange Students from
Paris Descartes University

受入期間:2019年7月1日~8月23日

氏名:Ms.Juliette Renard
受入診療科:循環器・腎臓・高血圧内科学/産婦人科学

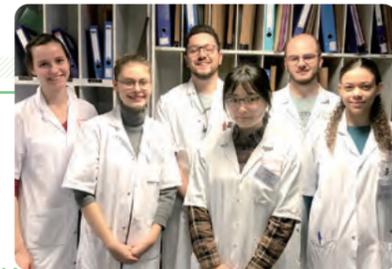
氏名:Ms.Sieta Gassama
受入診療科:救急医学/形成外科学/泌尿器科学



クリニカル・クラークシップ
(交換留学)

ストラスブール大学

氏名:竹原 琴音さん
学年(留学当時):5年
派遣期間:2020年3月2日~3月18日



留学を通じて感じたこと

同じ学年に当たるエクスターンが、医療スタッフの一員として役割を担っていたのが非常に印象的でした。手技や知識に個人差があるなど問題も感じましたが、人員も経費も限られる現場で最良の医療ではないかと思いました。医療制度が異なる国家間での医療の相違を感じられたことは大変良い経験でした。

今後、この経験をどのように活かすか

海外との相違に限らず、日本国内でも地域や病院によって異なる医療があると思います。それぞれの医療の違いを認識し、その場所のできる最良の医療を模索できればと思います。また、今回はCOVID-19の影響により早期に帰国というイレギュラーな状況で、多くの方のご協力のもと実習させていただいたことを実感しました。国境の封鎖や公共交通機関の運休などがあり不安も大きかったのですが、そのなかで無事帰国できたことは自信にもつながりました。様々な状況下でも柔軟に対応できるよう、今後も精進しようと思います。

先輩へのアドバイス

ストラスブールは歩いているだけで幸せになるような美しい街です。大学の方々ははじめ多くの人に大変親切にいただきました。素敵な場所なのでぜひ留学してほしいと思います。言語に関して、英語のみでも生活の面で困ることはありませんが、できるだけフランス語を勉強して行った方が良いと思います。病棟内での案内や説明は基本的にフランス語です。エクスターンがあとで一部訳してくれましたが、少しでも聞き取れた方が不安は少ないと感じました。患者さんと接する際も現地の言語を話せた方が、できることの幅が広がるかと思えます。

Exchange Students from
Strasbourg University

受入期間:2019年7月1日~7月26日

氏名:Mr.Louis Boehn
受入診療科:血液・免疫・感染症内科学/循環器・腎臓・高血圧内科学

氏名:Ms.Clemence Hubaut
受入診療科:消化器内科学/消化器・腫瘍外科学



クリニカル・クラークシップ
(交換留学)

タマサート大学

氏名:倉掛 義之介さん 学年(留学当時):5年
派遣期間:2019年3月2日~3月16日



留学を通じて感じたこと

留学前、今回の留学は『タイの医療について学ぶ』ためだと思っていましたが、いざ現地で実習を行ってみると、タイの医療についてのみでなく、『世界の中での日本の位置付け、日本人に対するイメージ』についても学ぶことがたくさんあるということに気がつきました。これからの医療において、日本がどう変わるべきか、世界の中でどのような役割を果たすべきかということについて、もっと自分も真面目に考えていく必要があると感じました。

今後、この経験をどのように活かすか

この経験を通じて、自身の中での留学のハードルが下がったように感じています。今後の医師人生の中でも、必要性を感じた際は、躊躇せずに海外に学びに行きたいと思えます。また、今回タイの医学教育について日本の医学教育にはない魅力的な点をいくつ

か発見したので、自身が教育する立場になったときにそのノウハウを積極的に取り入れるつもりです。

先輩へのアドバイス

留学を有意義なものにするには、英会話力は必須であると思います。英語を上手に使いこなせれば、現地の方々の距離をより縮めることができますし、コミュニケーションを通じてより深く情報を得ることができます。医学の勉強に時間を取られて英語学習に時間を割くのは大変だと感じる方も多いと思いますが、毎日ほんの数十分英語に触れるだけでも、それなりの効果は得られると思います。私のように英語に自信がないという方は、是非、医学の勉強のリフレッシュだと思って英語学習にも取り組んでみてください。

Exchange Students from Thammasat University

受入期間:2020年1月27日~2月21日

(写真左から)
氏名:Ms.Ngoenta Nithisoontorn
受入診療科:消化器・腫瘍外科学/外科治療学

氏名:Ms.Peerada Kobkarnsakul
受入診療科:救急医学

氏名:Ms.Saruta Vatcharasinthu
受入診療科:小児科学/リハビリテーション科学

氏名:Ms.Chalisa Suwanprinya
受入診療科:消化器・腫瘍外科学/外科治療学

氏名:Ms.Sakonrat Visedsintop
受入診療科:呼吸器病学



クリニカル・クラークシップ

カリフォルニア大学サンディエゴ校

氏名:柳澤 輝一さん
学年(留学当時):6年
派遣期間:2019年3月23日~4月23日



留学を通じて感じたこと

アメリカの医療従事者の特徴として、自分の意見を明確に相手に伝え議論する能力が非常に優れている点が挙げられます。回診やカンファレンスでは医師だけでなく、多職種が自由に多様な意見を出し合い、それらを統合してより良い治療計画が決定されます。このような効率的かつ質の高い意思決定プロセスが日本の医療現場に必要とされているものであると強く感じました。また、日本とアメリカの医療の様々な違いを直に感じ取ることができ、日本の欠点だけでなく長所を発見できたことで、自分の強みを活かして世界を舞台に活躍する戦略を見出せると感じました。

今後、この経験をどのように活かすか

病棟実習において、患者さんの診療に、より主体的に責任感を持って取り組むことが第一歩であると考えます。その中で、診療に対する自分の主張を明確に相手に伝える機会を探り、実践することが重

要です。さらに、自分だけではなく周囲の学生を啓発し、より活発な議論ができる場を積極的に構築することを目標に定めます。日本人には物事の細部にこだわり、質の高いものを生み出せる気質が備わっていると考えます。この長所を伸ばしつつ、外国人と対等に自己表現ができれば大きな価値となるでしょう。

先輩へのアドバイス

アメリカ留学で重要なのが英語力であることに違いはありません。英語力はコミュニケーションの律速段階となるため、これを予め伸ばしておくことが留学での学びを最大化するための最良の方法でしょう。しかしより大切なのは、自分が経験した物事にどのような意味を見出すかです。それは自分が求める経験であったのか、そこから得られる教訓は何なのか、常に問い続けながら留学生活を送ることができれば、それらの経験はあなたの貴重な財産になるはずです。留学は自分自身を見つめ直す非常に良い機会になります。

クリニカル・クラークシップ

英国大学医学部における臨床実習
(リーズ大学)



氏名:野上 晴菜さん 学年(留学当時):6年 派遣期間:2019年6月3日~6月28日

留学を通じて感じたこと

現地の人と過ごすことでイギリスでの文化や慣習を知ることができました。実習では、基本的に言語は違っていても行っていることは同じであると感じた反面、回診により時間をかける、省けるところは省くなど(例えば他の病院への紹介状は録音し、他の人が書き出すといったように、)の違いを感じました。実習面では、業務内容は日本とあまり変わらないと感じた一方、イギリスではIBDが日本より多く、IBD Clinicが確立されている、内視鏡の技術は日本がトップレベルである、専門性をもった看護師(医師がおこなう手術を行える)の増加、研修医の積極性など、異なる部分も多々みられました。また、イギリスでは多様な人種の人が病院に集まっていて、皆とても愛想がよく、挨拶もしっかりしてくれど感じました。オペ前には患者さんが安心してできるように、その手技に携わる人や放射線技師、麻酔科などが皆笑顔で再度自己紹介をし、患者さんの信頼を得ていることがよくわかりました。

今後、この経験をどのように活かすか

この留学経験の中で活かすことができる点は、積極性と臆することなく患者さ

んや上級医ともコミュニケーションをとること、患者さんの話をよく聞くということだと思います。同業者間で良好な関係を築くことは、患者さんの利益という点で最も重要であり、お互いに些細なことでも聞きやすい環境を普段から作っておくことが大事だと思います。また、日本では、医師でなくてもできる仕事までこなすことで多忙となり、ミスの可能性も増えてしまうので、そういった部分はイギリスや海外を見習い、効率化していくべきだと思います。将来、そこを変えていくことに携わることができたらと思います。

後輩へのアドバイス

留学に行くことで、思ってもみなかった新しい発見があると思います。また、共通している部分が多く、医療とは、言語の違いだけで本質は変わらないのだと感じました。実際に行ってみて初めて感じ、気づくことがあるので、機会があれば積極的に参加してほしいと思います。それぞれが見つげられること、学べることであり、絶対に成長でき、広い視野や海外の医療をより身近に感じることができると思います。日本の医療を大きな視点で考えるには、まず、海外の医療を自分で見て体感してくることが大事だと思います。

短期海外研修プログラム

ブリティッシュコロンビア大学
Vancouver Summer Program



氏名:朝倉 一さん 学年(留学当時):4年 派遣期間:2019年7月13日~8月13日

留学を通じて感じたこと

カナダと日本の大学教育の大きな違いとして、生徒への裁量権の広さに差があると感じました。カナダでは、あくまで講義は基本的な知識を提供する程度で、多くは課題をこなすことでその知識を応用していく力を身につけていくという形式が多かったです。生徒間のグループが作成されて、共通の課題を話し合いながら解決していくことが多く、生徒同士の交流も日本と比べ多いと思いました。プログラムとしては、解剖学からデータサイエンスまでの多種多様なテーマから渡航前に1つ選んで1ヶ月ほどの講義を受けました。僕は、精神医学の分子生物学を学ばせていただき、日本の臨床的知識を補う知識を学ぶ機会を得られました。こうした講義の合間にも、バンクーバーやビクトリアなどの美しい街並みを楽しむことができ、「よく遊び、よく学べ」を体現するような生活を送れました。

今後、この経験をどのように活かすか

僕はもともと精神医学に興味があって医学部に入学したので、カナダで学んだことを忘れずに「精神疾患も脳の病気」ということを意識していきたいです。それだけでなく、英語でディスカッションをする能力も身に付けることができたので、留学生と英語で話す機会があれば積極的に生かしていきたいと思っています。

後輩へのアドバイス

選べるプログラムの幅がとても広く、日本の医学部に在学しているだけでは学ぶことの難しい講義を受講することができるので、プログラムを見て自分が受講したいと思う科目があれば挑戦してみるといいと思います。また、全ての参加者が英語を第二言語としている留学生で、日本とカナダのみならず、韓国・中国・チリ・タイ・スペインといった様々な国の人と関わることができ、国際色豊かな交流をしたい人にはオススメです。

短期海外研修プログラム

シンガポール国立大学シミュレーションセンター
Experiential Simulation Programme



氏名:小沢 一貴さん 学年(留学当時):6年 派遣期間:2019年7月1日~7月12日

留学を通じて感じたこと

今回の実習を通して強く感じたことは、シンガポール国立大学(以下、NUS)の学生と自分の医学に対するモチベーションの違いです。私たちは普段、国家試験に通ることを目標に学習し、それ以上の知識は研修医になってからと考えてしまうことが多いと思います。一方NUSの学生は、私たちが学生のレベルを超えていると判断した知識まで習得しようとしています。しかしその多くは、現場に出た際に活かせる知識ばかりであり、私も現場に出てから学習すればいいと考えていたのは間違いであったと改めさせられました。また、教科書と向き合って知識を習得した後に、適切な場面でそれらを引き出す練習をしておくことの重要性を認識しました。その点、シミュレーショントレーニングは非常に効果的な学習法でした。日本の教育にもこうしたシミュレーション学習を多く取り入れるべきだと感じました。

今後、この経験をどのように活かすか

まず、私自身としては学習に対する意識をより高めていくことが必要であると感じました。すなわち、より実臨床に即した知識について学生のうちから学習に努めていこうと思いました。他の学生に還元できることとしては、ACLS研究会での活動をより活発にし、ACLS はもちろん、経験したシナリオのようなものを作成し、横浜市立大学(以下、YCU)でも同様のシミュレーション

プログラムを学生内で行っていきたくと考えました。学習内容を共有し、YCUの学生のレベルの向上に貢献できるように努めたいと思います。

後輩へのアドバイス

本プログラムの最大の特徴は、NUSの学生と授業を受け、さらにシミュレーショントレーニングにグループの一員として参加できることにあります。当然、すべて英語によるコミュニケーションが必要であり、特にACLSについては試験もあり、事前知識がないと2日間で理解し実践するのは極めて困難であると感じました。YCUのカリキュラムでACLS について詳しくは触れられないため、私たちはACLS研究会という学内の学生団体で基本知識を一度学んでから留学に臨みました。日本のプロトコルとは多少の差はあるものの、理解の大きな手助けとなりました。ACLSに関してのみならず、手技の適応、禁忌などを分担して調べた資料も作成していったことは良かったと考えています。理解することができれば、一層充実した2週間となるに違いのないため、事前の準備をしっかりととして臨んでほしいと思います。また英語に関しては、現地の学生は非常に親切で、私たちの言いたいことを理解してくれようとしてくれます。私は拙い英語しか話せなかったのですが、十分に仲良くなることができ、随所で助けてもらいました。英語での会話に臆することなく、積極的に学生、先生たちとのコミュニケーションを図って欲しいと思います。

短期海外研修プログラム

ハワイ大学(John A. Burn School of Medicine)
Summer Medical Education Institute



氏名:朝倉 一さん 学年(留学当時):4年 派遣期間:2019年8月17日~8月24日

留学を通じて感じたこと

ハワイ大学での1週間の留学を経て、能動的に学ぶことの大切さと患者さんを目の前にする責任を学ばせていただきました。ハワイ大学の特徴として、「患者さんから学ばせていただく」という教育が徹底されています。このプログラムは、この教育方針に従い、症例を基にした能動的学習・模擬患者さんへの医療面接と身体診察・実際の注射針やシミュレーションを用いた手技の練習の3つに分けられています。これら全てを通じて、目の前の患者さんの病気をどのように考え、どういった態度で診察に臨むべきかを、ともに留学に参加している友だちとユニークな先生方と一緒に学べます。それだけでなく、現地の学生とともにハワイの素晴らしい海や気候を楽しむこともでき、非常に充実した1週間を過ごすことができました。

今後、この経験をどのように活かすか

ハワイ大学で徹底されている「患者さんから学ばせていただく」という姿勢は、今後の勉強や臨床実習においても大切にしていきたいと思っています。また、アメリカの医療現場を垣間見ることができたので、日本との違いを意識していきたいです。

後輩へのアドバイス

多くの参加者が日本から来られるので、英語が苦手という方でも十分に学べて楽しむことのできるプログラムです。なので、一番大事なのは「留学に行ってみよう」という熱意があることだと思っています。ただ、OSCEで行う程度の医療面接や身体診察を英語で行う必要はあるので、最低限の英会話と多少の医療英語の勉強は必要です。また、低学年でも十分参加できると思いますが、診察のお作法ぐらいの知識があるとより留学での学びが深まります。

説明会に参加

研修・留学が実施されるおおよそ半年前に説明会が実施されます(一部のプログラムを除く)。募集内容や条件などはホームページに掲載されます。

応募

募集要項に沿って、必要な書類を提出します。

例) 英文履歴書、志望動機(英文・和文)、英語能力の証明書類(TOEFL、IELTS)

応募にあたっては、有効な語学試験スコアが必要です。詳細は右ページ『必要な語学試験について』をご覧ください。

学内選考

学内教員による選考が行われます。志望動機や学業成績・態度、英語力などが総合的に評価されます。

派遣先による選考

派遣先によっては、スカイプ等を用いたウェブミーティングによる面談が行われます。

派遣決定!

派遣先で必要となる書類や渡航の準備(航空券、宿泊先、ビザ、保険など)が始まります。

補助金申請

プログラムによっては学内外の補助金への申請が可能です。

オリエンテーション

渡航前に「海外研修・留学の心得」や「海外での危機管理」など複数回のオリエンテーションを行います。

研修・留学

各留学先での臨床実習や研究のほか、海外でのさまざまな経験を通して、英語でのコミュニケーション能力の向上とともに豊かな国際感覚を身につけます。

報告会

これから留学を希望する学生や学内教員を対象に研修・留学で得た成果を発表いただけます。

学生海外留学・研修補助

横浜市立大学医学部・医学科同窓会 倶進会

若手の育成、特に10年後、20年後に本学より優秀な基礎研究者や臨床医を輩出する事を目的として、医学部医学科学生の海外留学・研修に対して資金の援助を行っています。

2019年度実績

計148万円

ブリティッシュコロンビア大学	15万円/1名
ハワイ大学	10万円/1名
シンガポール国立大学 シミュレーションセンター	5.5万円/6名
Nemours 小児病院	9.5万円/2名
パリ・デカルト大学	9.5万円/3名
ストラスブール大学	9.5万円/1名
MDアンダーソンがんセンター	9.5万円/2名
テンブル大学	7万円/2名

*新型コロナウイルスの影響で多くのプログラムが中止になりました。

2020-2021年の派遣者には、派遣先により6~15万円の補助金が支払われる予定です。

その他にも学内より以下の補助金が支給されます。

横浜市立大学学生海外派遣補助金

プログラムや地域によって2万円~5万円

横浜市立大学医学部後援会補助金

プログラムや地域によって2万円~5万円

海外臨床実習報告会、医学教育国際ワークショップ、各種セミナーなどを行っています。まずはこれらのイベントに参加して情報収集をしましょう。

海外臨床実習報告会



海外研究/臨床実習に参加した学生が、実習の様子や得られた成果について、英語でプレゼンテーションを行います。2020年はZoomで開催されました。1年生から6年生までの留学を希望する学生を中心に、毎回多くの学生が参加し、貴重な留学体験談に熱心に耳を傾けています。プレゼンテーション終了後には留学プログラムの内容や現地での生活について、活発な質疑応答が行われます。

医学教育国際イベント



海外の協定校などから講師を招聘してワークショップを開催する等、毎年様々な国際交流の機会を提供しています。2020年度は、COVID-19の影響で海外渡航等が制限される中、オンラインでの新たな海外交流イベントを実施しました。

- 2020年度 タマサート大学(オンラインによる国際交流イベント:タマサート大学教員による講演及び両大学学生によるグループワーク)
- 2019年度 ハワイ大学(テーマ:Problem Based Learning)
⇒新型コロナウイルスの影響で中止
- 2018年度 シンガポール国立大学(テーマ:Simulation Based Learning)

必要な語学試験について

海外プログラムへの応募にあたっては、有効な語学試験スコアが必要です。有効な語学試験スコアとは、TOEFL-ITP、TOEFL-iBT、IELTS(アカデミック・モジュールのみ可)のいずれかの試験、かつ試験日より2年以内のものを指します。TOEIC、英検など、有効期限が設定されていない試験のスコアは受付不可となりますのでご注意ください。

- ◇有効期限内のスコアであれば点数によらず応募は可能です。
- ◇ただし、受入大学側が語学試験の種類やスコアを指定している場合は、指定に準ずることが応募の条件となります。
- ◇最終的な応募の条件は、募集要項で確認ください。(YCU Portal、ホームページを通じて随時告知します)

※語学試験の詳細については、各主催団体にお問合せいただくか、公式サイトで確認をお願いします。

TOEFL-ITP <https://www.cieej.or.jp/toefl/itp/>

IELTS <https://www.eiken.or.jp/ielts/>

TOEFL-iBT <https://www.ets.org/jp/toefl>

<https://www.jsaf-ieltsjapan.com/>

医学教育推進課 医学国際化等担当について

医学科海外派遣プログラムの企画・運営、派遣中の安全管理をはじめ、海外協定校からの交換留学生受入れ、医学教育国際ワークショップ、国際イベントの開催など、キャンパス内外での国際交流に係る支援を行っています。

お問合せ

医学教育推進課 医学国際化等担当

〒263-0004 横浜市金沢区福浦3-9
福浦キャンパス医学部基礎研究棟2階

☎ 045-787-2980

✉ ycumedgl@yokohama-cu.ac.jp

🌐 YCUホームページ → 🌐 ヨコハマから世界へ → 📄 医学部医学科 海外派遣プログラムについて





〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9

医学教育推進課 医学国際化等担当 TEL 045-787-2980

費用や渡航先などの情報は各国の情勢により変更される場合があります。最新の情報はウェブサイトでご確認ください。



http://www.yokohama-cu.ac.jp/ytog/global/med_overseasprogram.html

YCU 医学部 留学

検索